

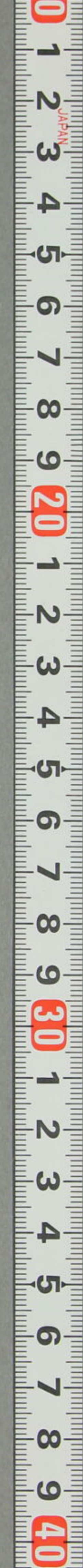


幕末維新書留

慶應二年六月至七月

卷二
一七

服部文庫
イ 17
2189
36



117 特
2189
36



一
九
奉
京
上
德
國
中
部
其
東
海
心
前
者
去
月
七
日
報
同
村
嚴
密
防
禦
土
部
相
集
村
內
各
界
科
款
庫
或
後
村
打
斃
者
村
役
人
等
一
月
內
早
速
回
家
清
理
各
界
清
吏
子
孔
差
當
否
極
其
便
高
車
舟
數
萬
元
之
行
遠
之
庫
車
絕
跡
札
姑
次
嚴
另
及
該
靜
心
燭
我
人
小
受
一
九
陳
履
浩
者
七
歲
其
當
其
插
之
前
以
此
一
書
以
爲
會
告
也

六月朔日

丹羽九宗美曾后
水澤長吉門

一
上
板
或
能
通
在
月
朔
日
清
新
國
代
家
老
者
百
呼
十
兩
清
而
亦
清
發
清
也
仰
望
九
宗
美
宗
自
以
所
存
此
下
波
難
道
也
右
有
何
等
事
也

六月朔日

上板淨正文彌宗美
小幡上惠云備

一
備
國
金
鋪
所
收
官
而
及
札
指
者
方
一
石
見
四
丈
漆
漆
成
案
上
立
中
板
子
以
之
束
戶
粉
也

打取... 四月十日... 板倉... 津市...
打取... 四月十日... 板倉... 津市...
打取... 四月十日... 板倉... 津市...

六月朔日

任 在 平 馬

六月廿日

久世出書子

千... 板倉... 津市...
千... 板倉... 津市...
千... 板倉... 津市...

板倉遠江守

招州... 津市...
招州... 津市...
招州... 津市...

前田丹後守

北市... 津市...
北市... 津市...
北市... 津市...

六月廿日

同日... 津市...
同日... 津市...
同日... 津市...

書... 津市...
書... 津市...
書... 津市...

二月... 津市...
二月... 津市...
二月... 津市...

一... 津市...
一... 津市...
一... 津市...

和年...

此... 水野日向

大物... 水野大物

六月

高杉 電

江... 中...

五月廿二日 六月九日出

土井...



討死

日 日 日 日 日 日 日

七日之...

別役 中... 小...

服部文庫 117 1271 13132

此者亦未嘗以爲奇門兼計其時
亦未嘗以爲奇門兼計其時
亦未嘗以爲奇門兼計其時
亦未嘗以爲奇門兼計其時

六月十一日

酒井在奇門村

此者亦未嘗以爲奇門兼計其時
亦未嘗以爲奇門兼計其時
亦未嘗以爲奇門兼計其時
亦未嘗以爲奇門兼計其時

六月十一日

高木亦水正

此者亦未嘗以爲奇門兼計其時
亦未嘗以爲奇門兼計其時
亦未嘗以爲奇門兼計其時
亦未嘗以爲奇門兼計其時

一 光緒二十九年... 松平古系屯

二月十九日

...

二月十九日

同日...

...

阿部 豊隆
右代 松平古系

...

豊後守知
三千石

阿部 豊隆

阿部 豊隆
右代 右日人

...

松平 古系

右代 松平 古系

阿部 豊隆

阿部 豊隆
右代 松平 古系

...

...

湯原 你... 北... 山... 柳... 村...

右... 河... 宅... 老... 中... 德... 野... 河... 中... 大... 日... 行... 吉... 德... 吉... 宿... 心... 日... 正... 相... 敵...

此役東江浦河五右衛門大將戦争の書

- 一 三月八日... 大砲... 打... 砲...
- 一 同... 大砲... 砲... 砲...
- 一 右... 砲... 砲... 砲...
- 一 山... 砲... 砲... 砲...

同知 四人付名大砲口延多捕角

公堂所人教以軍艦方ノ外不於上陸時

一 十時頃七時以敵軍艦三艘本陣大砲三挺打撃し有

公道以人教五挺山人数上陸時ノ一ノ外於本陣大砲軍艦打

掛打合本陣軍艦三艘本陣大砲打撃し敵船中ノ一

本陣大砲三挺敵軍艦三艘以下ノ一ノ外於本陣軍艦打撃し敵船

一 大砲三挺敵軍艦三艘以下ノ一ノ外於本陣軍艦打撃し敵船

一 今十時早天大砲三挺内今三時而右ノ山潜伏在ノ敵軍艦三艘

公道以人教五挺山人数上陸時ノ一ノ外於本陣大砲軍艦打

掛打合本陣軍艦三艘本陣大砲打撃し敵船中ノ一

本陣大砲三挺敵軍艦三艘以下ノ一ノ外於本陣軍艦打撃し敵船

一 大砲三挺敵軍艦三艘以下ノ一ノ外於本陣軍艦打撃し敵船

大砲三挺敵軍艦三艘以下ノ一ノ外於本陣軍艦打撃し敵船

以伊部

三向

出二大砲

以本陣軍艦三艘

一 六月十日申下別由至同廿二日別之江人表名度所表官處

一 爲書抄一文字

一 蘇叙自名形勢其外種中々依本樓蘇叙以二先付

一 右所記名者根多因ノ付付ノ事爲蘇叙以二先付

一 右所記名者根多因ノ付付ノ事爲蘇叙以二先付

一 蘇叙自名形勢其外種中々依本樓蘇叙以二先付

一 右所記名者根多因ノ付付ノ事爲蘇叙以二先付

一 右所記名者根多因ノ付付ノ事爲蘇叙以二先付

一 十時頃七時以敵軍艦三艘本陣大砲三挺打撃し有

一 公道以人教五挺山人数上陸時ノ一ノ外於本陣大砲軍艦打

一 掛打合本陣軍艦三艘本陣大砲打撃し敵船中ノ一

一 本陣大砲三挺敵軍艦三艘以下ノ一ノ外於本陣軍艦打撃し敵船

一 大砲三挺敵軍艦三艘以下ノ一ノ外於本陣軍艦打撃し敵船

十字口戦年



廿日市

只今此陸軍出陣

小湫川

井俣取神系
手三致大

昭村

防旗

新港

山石園

関戸

証明書新中... 大砲銃...
 一 夫役人数... 田人数...
 右... 只今此陸軍出陣...
 三月十日申下別紙

服部文庫
 417
 1291
 70133

十字の戦争



廿日市

只今此陸軍也池

賊此迫山歩
討て出

此指抗建心 賦致火
出長物部

十四日五月川揚ヶ後
賊火 賊火 出池
會座山

木野村

大竹村 賊火

新港

昭村

防旗

関石

山石園

新港

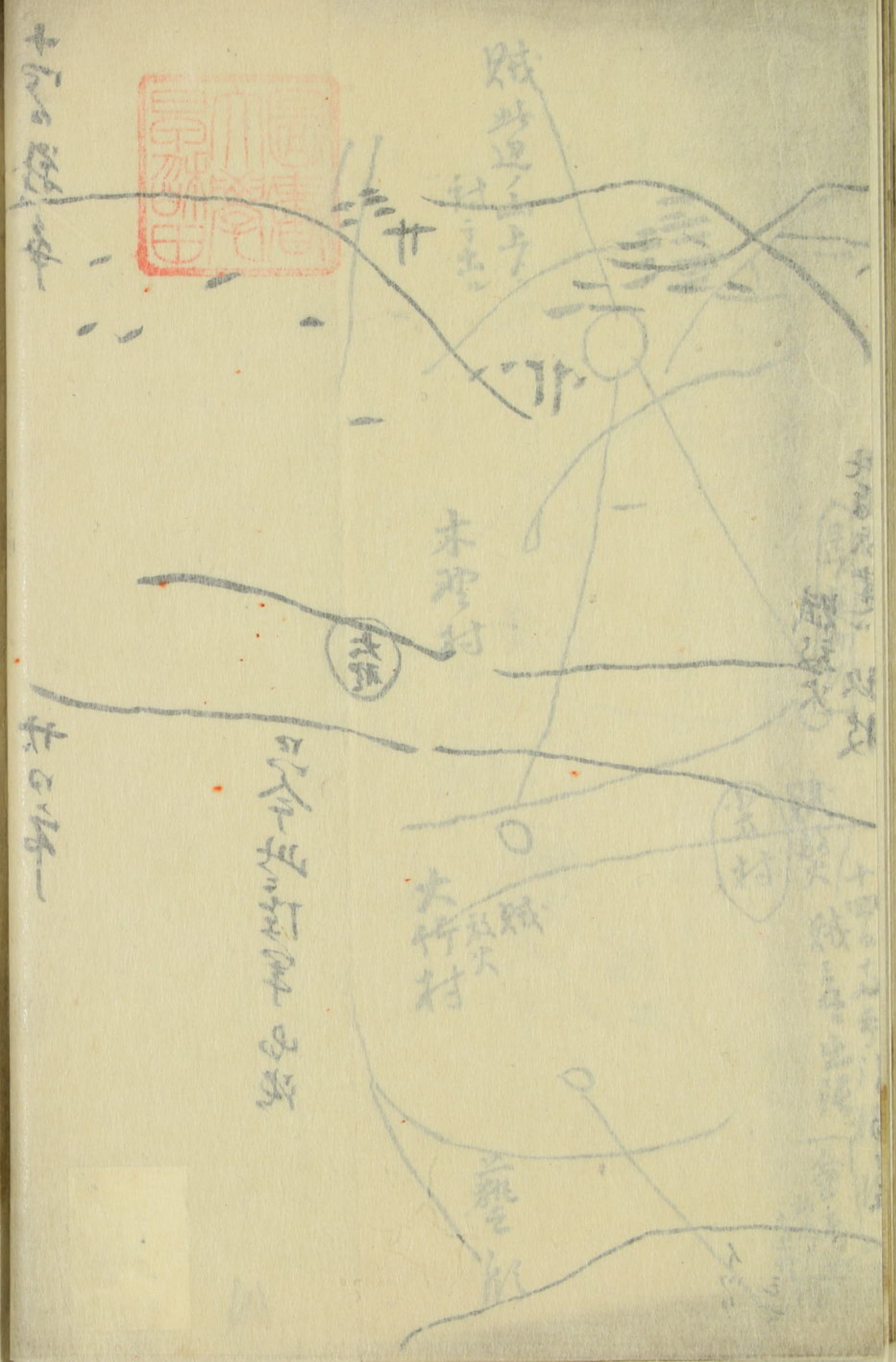
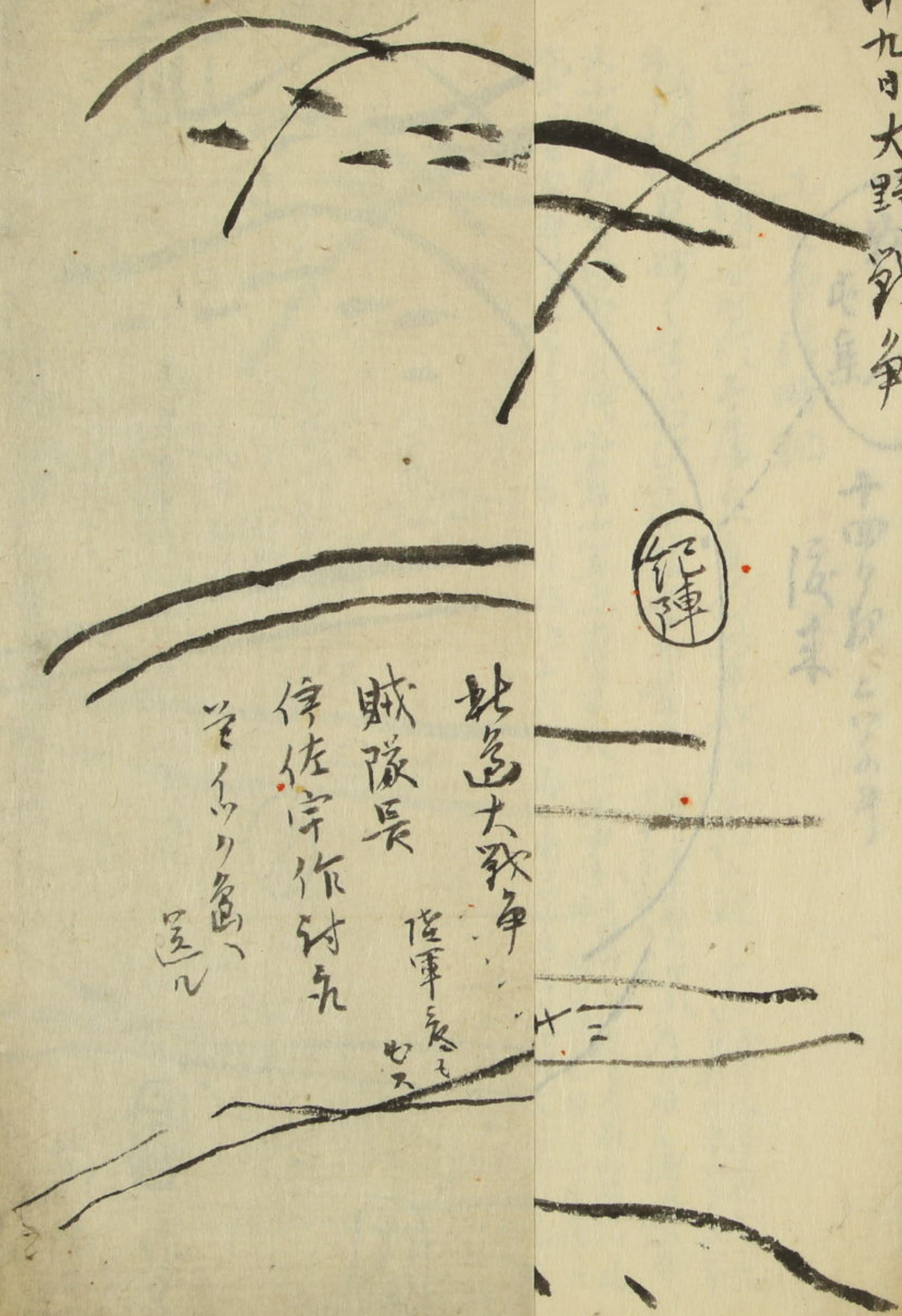
井仔取神系
手三致火

小瀬川

イツリ
シマ

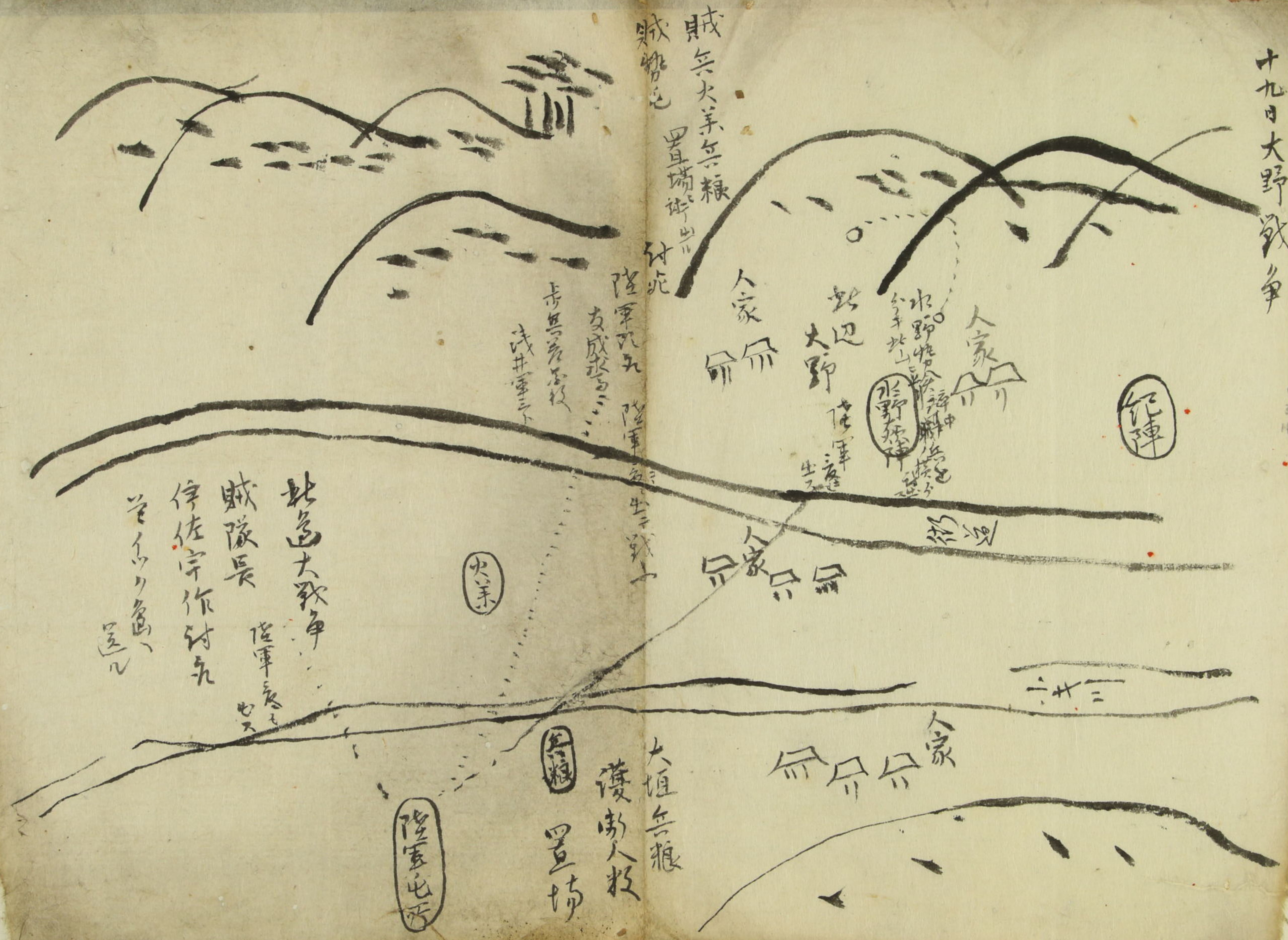
服部文庫
417
1291
10133

十九日大野戦争



十九日大野戰爭

大野戰爭



賊兵大野無糧
置場

付死

人家

北野
大野

人家

陣

歩兵
浅井軍下

隆軍
友成

北野
隆軍

人家

河

北野大野戰爭
賊隊長
佐佐木宗作討死

火

隆軍

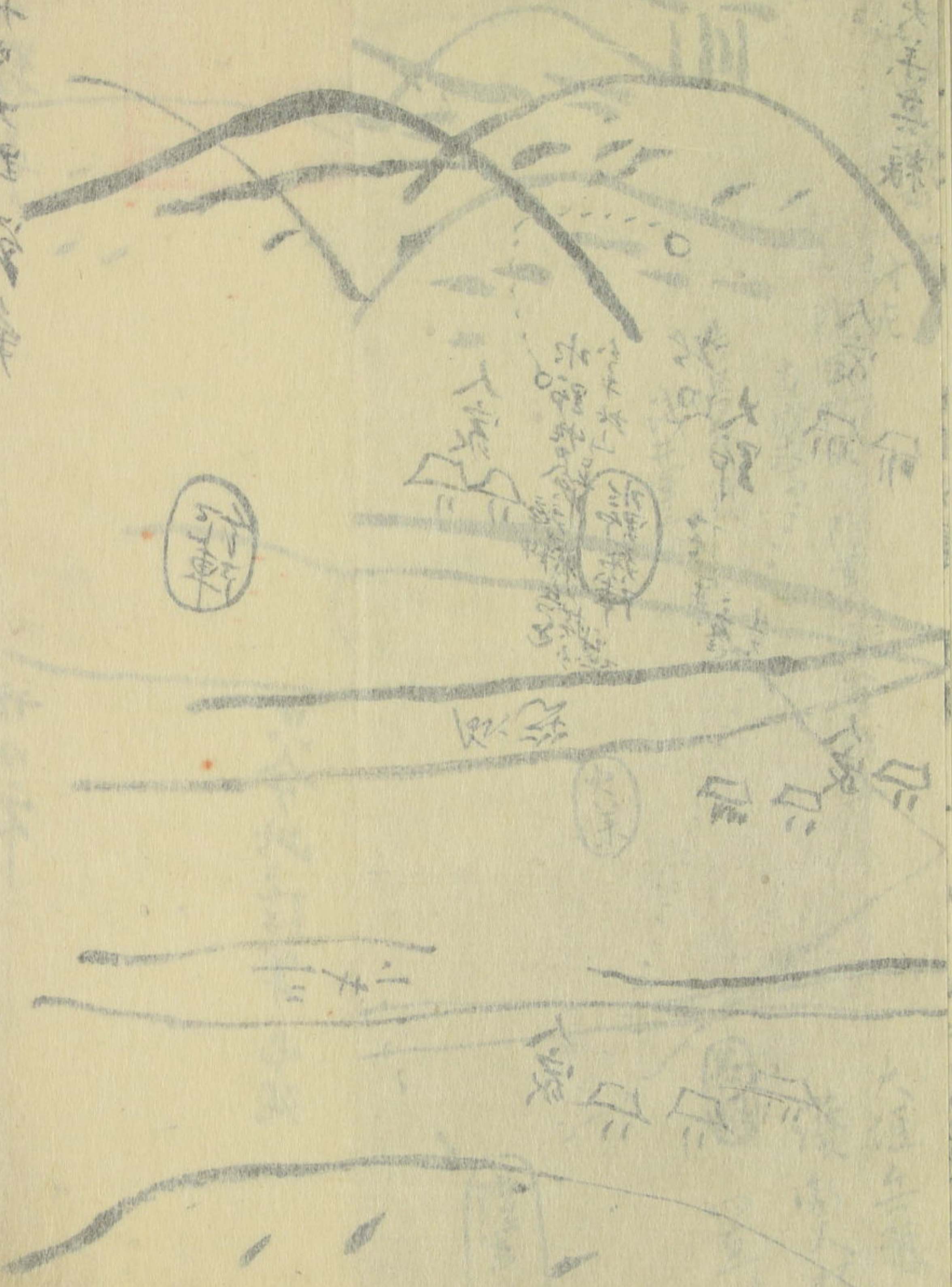
大垣無糧
護衛人殺
置場

人家

三

大野戰爭

十四日大目録



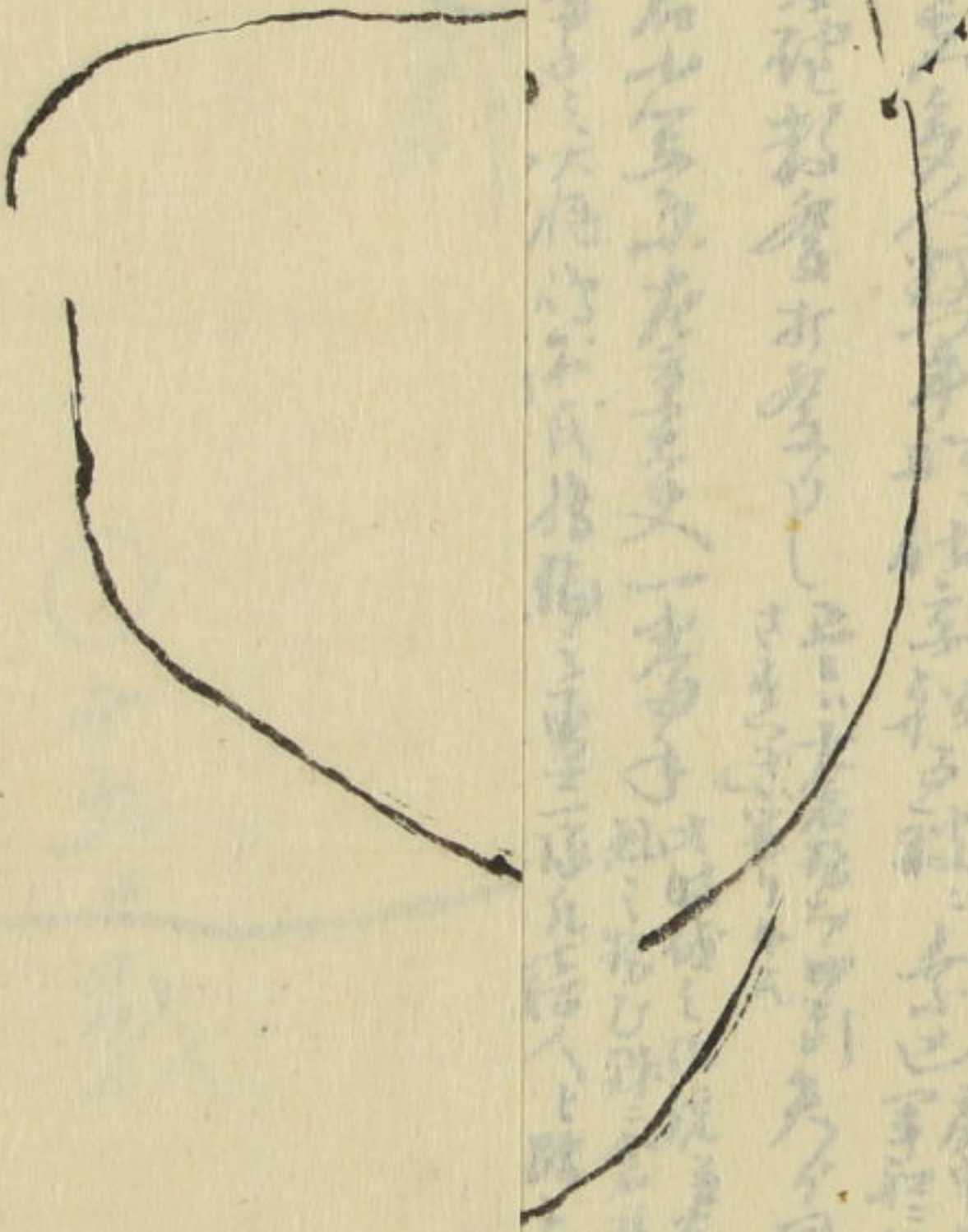
賊

屯集

十四日大目録
後集

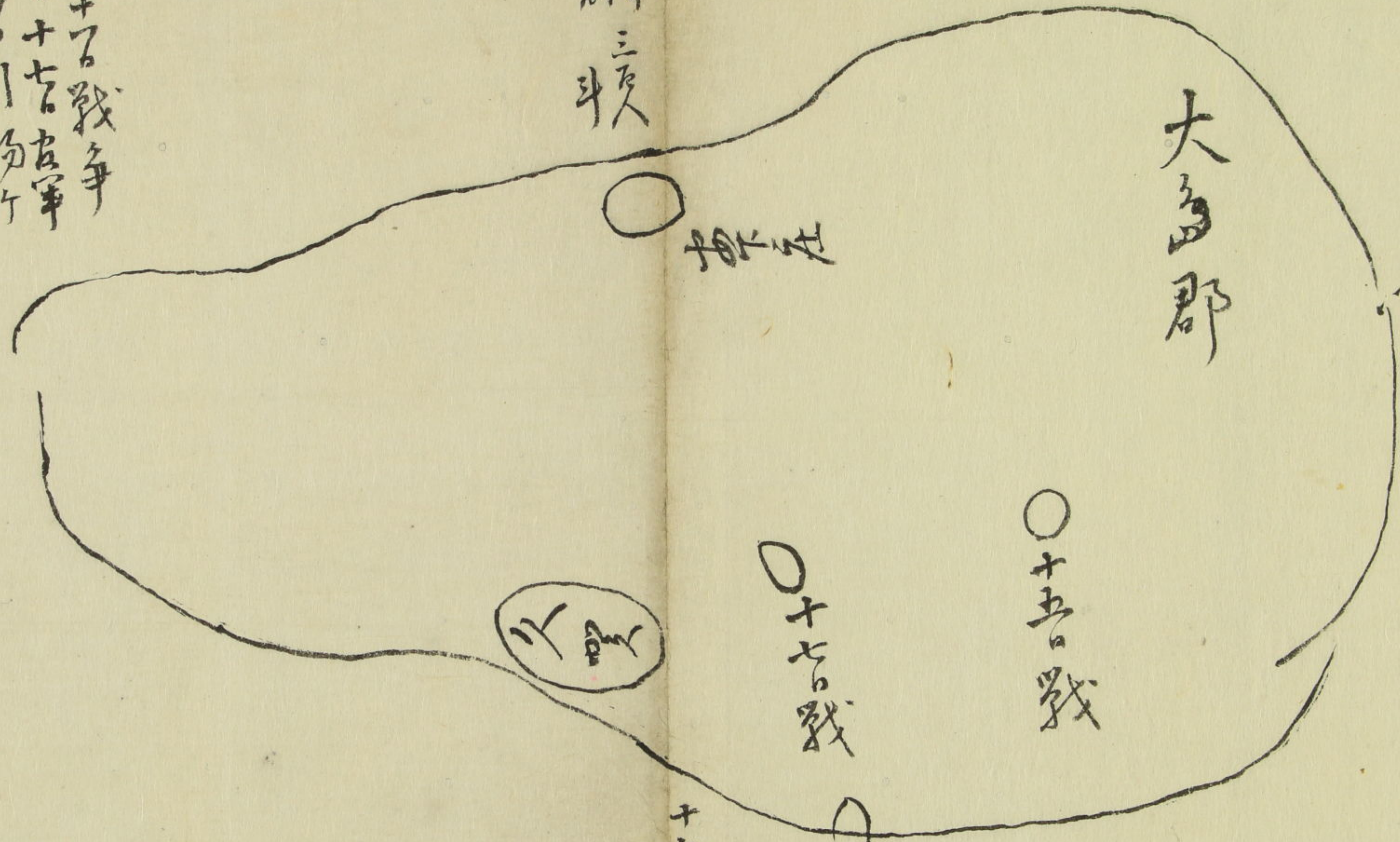
八ノ名掛十百戦年
 敗北十名十七古古軍
 苦戦十名。江物
 親五信

百名明七世...
 本名...
 大目録...



八ノ下名掛十石戦年
敗北十石十石古軍
苦戦十石江物
粗五倍

十石何降三度
杉山三斗



大島郡

○十石戦

○十石戦

陸軍

此通上陸

十石大島
揚攻

賊屯集

十四日戦
後

十石大島

十石

六月廿日

上九前日

松平家傳... 見任... 松平家傳... 見任... 松平家傳... 見任...

六月廿日

松平甲斐守

六月廿日... 松平家傳... 見任... 松平家傳... 見任...

六月廿日... 松平家傳... 見任... 松平家傳... 見任...

六月廿日

六月廿日

加藤康江守

一 同文言 毛村老宗有來人

六月廿日

竹腰詰 若

紀伊原東城附... 紀伊原東城附...

紀伊原東城附... 紀伊原東城附... 紀伊原東城附... 紀伊原東城附... 紀伊原東城附...

六月十九日

向老... 紀伊原東城附...

紀伊原東城附...

大聖村城兵為陳伐法人數由出張之安今曉儀城兵及
他處少者夫之安者仍在一因不惜才命振別實奮苦戰進
後利之故一故之安者仍依出張之者其酒者多自安之村
裁兵了之安此故之安也

吳朝之表七月

演田傾分多田益田之二村言六月十六日長人益田羅心と通也
二村話之役人通也其來方再之在引山并一旦退り山也夕七時
以六百人注聚來ふ之地各在昂時之能山門法也
者統九之陣り討死取入一先戦命止之其十七日津和堂
只古六百人之外多人數押來戦争之安福山勢為玉梯
子之聲店三人數志二子切り外之數又津和堂其三人出
傷多し甚多傷者有之聲店其死傷六七人也有之氣也
之山本之聲店二子出出張討死以多し僕美日之該方
多端住坐方急死元荒塔認上高考以覺存存也

服部文庫
117
1290
813

此度市極主信正の四圍討多し向て為在掃と云はれ付是指揮役も古
海軍探舟文書通より今度通し版有畏山は根元若年寄と指
揮し古徳いれ候事と云はれ候はり候事

以平河侍也

書面之類各所御役所より其書物出候事有し主膳定正は其役所
老中因取立候指揮役い候事

字和嶋是向文書類
長崎公長如字和嶋是は初著と云ふ年以難斗元と角と云はれ確
證し有し今度通し度い候事仕生れ難斗少海軍の在東西人教
出候事甚苦心に在り出候事候事

覽

書面之類外國人情類難斗并他色書之と云一應元候事

全其水乞請... 達後致... 一軍之... 砲... 田... 右... 此... 六月十九日

立石...

渡... 主...

一平

多... 砲... 田... 右... 此...

大... 砲... 田... 右... 此...

杉浦...

二平

今... 砲... 田... 右... 此...

初、右立本街道向ヶホーウト西長山麓向ヶ回取抄手存
少、又、陣易致、抄手、少、丸、乃、道、と、俄、引、揚、退、至、所、首、級、
是、少、生、捕、之、而、人、但、人、史、也、其、外、器、械、之、と、取、錢、一、有、多、捕、致、
了

一 退走、取、長、間、道、一、五、四、四、風、生、日、大、勢、降、取、中、作、市、の、取、右、と、取、取、
波、押、之、少、敷、示、之、未、也、と、名、也、少、有、注、進、し、之、取、と、の、後、也、
一 先、兵、會、し、且、少、之、取、大、勢、揚、取、中、作、市、日、中、人、等、可、り、之、の、
少、也、也、

追討

本、路、下、進、下、水、之、割、紙、之、通、没、云、道、也、抄、付、少、酒、而、有、者、
而、同、度、有、存、也、也、

赤、土、之、又、取

六、席、之、湯
主、水

一 和、順、寺、到、其、高、野、郡、修、能、村、其、廿、四、日、曉、古、清、此、最、多、遠、近、舟、二、千、村、社、而、集、
亦、之、手、相、集、之、下、分、村、同、姓、團、者、中、者、若、始、取、修、村、又、之、向、同、村、事、者、皆、同、法、集、
之、派、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、
中、越、也、且、有、洞、洞、之、意、取、分、先、之、最、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、

六月廿日

黒田 統長 也

一 昔、言、一、時、八、日、也、也、清、野、上、大、和、順、寺、同、姓、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、
且、少、分、之、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、
并、流、意、者、有、也、初、之、又、少、補、之、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、
以、作、也、也、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、
之、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、

六月廿日

六月廿日

松平大和守家康

右、右、右、右、右、門

一 阿、内、右、左、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、

院此に高懸て其に兵備控他左手を之に隠挿即入懸岩要隊戦平
 學方陣の支先を以て如き勤め機も此に破撃山上を被撃法平學
 近に遊撃隊を以て守り以て死支防係同姓之部人部は
 亦、お清治軍械部と烈火砲戰隊と才物軍お孫、つ支、 陽山下
 海軍も難義且進進、村、季火機、射、術を以て器械機其、也
 在防、論、平、高、於、支、村、或、於、中、台、信、考、也、及、下、機、十、年、お、向、上
 度、防、長、一、先、制、物、其、以、後、と、指、平、由、度、防、等、の、隊、殿、係、お、葉、等、事、
 人、数、死、傷、之、は、大、洞、之、上、防、等、之、以、及、以、向、中、事、等、也、

六月

井伊保形

六月廿四日、大坂、お、同、廿、日、守、殿、若、情、守、
 六月廿三日、板倉、伊、等、守、保、形、守、殿、之、以、向、公、有、人、之、由、直、防、以、以、
 是、日、廿、日、以、向、守、殿、

六月廿五日、三枝、形、防、討、死、防、
 保、形、守、殿、之、以、向、
 六月廿六日、大坂、講、守、殿、

一、此、今、因、由、之、為、守、保、其、氏、名、守、此、高、月、十、二、日、守、公、守、防、方、平、守、保、門、を、越、
 蓋、田、下、遠、田、之、右、上、押、守、之、也、蓋、田、守、保、此、三、山、南、取、下、一、手、遠、田、守、
 中、田、之、也、及、左、右、守、保、之、以、一、獲、打、之、也、及、田、右、之、也、獲、之、也、
 六、五、人、保、守、和、守、保、之、以、一、下、押、守、之、保、之、也、中、守、
 防、形、守、殿、之、也、及、右、之、也、守、保、之、也、中、守、
 田、村、上、保、守、之、也、守、保、之、也、
 直、行、守、殿、之、也、守、保、之、也、
 守、保、之、也、守、保、之、也、

六月廿七日

一、今、初、日、保、守、守、保、之、也、守、保、之、也、
 守、保、之、也、守、保、之、也、
 守、保、之、也、守、保、之、也、

一、守、保、之、也、守、保、之、也、
 守、保、之、也、守、保、之、也、
 守、保、之、也、守、保、之、也、

兒と信守が武人ともを洋敵事とすれあむを思ひ在る意一切
以備身事

一 兵馬人の振立としも是れを悔ひて降せん事あり其罪を免さず

一 兵馬人の振立を無人城許にせしむる事あり其罪を免さず

一 百姓町人未一切に携せしむる事あり其罪を免さず

一 但しこれに備ふ事あり其罪を免さず

吾々此國は其高き人民未之を其を免さず

慶應二年寅六月

四方秋系一板摺

出陣事

戸田助平

別紙之通に於ては此に依りて山張並に其の事あり
以て此の由申す以上

六月廿五日 午申時 四方秋系

別紙

戸田助平

今頃卯より別人已降山林より赤火の手あり此の由申す
新出梅垣坂向より西小山の合圍に於りて其の事あり
去り並陣に於て銃炮發せし事あり大小砲あり其の事あり
軍の棟大矢を放てて一砲に替りて其の事あり大小砲を
以て散らす事あり其の事あり其の事あり其の事あり
我々最傷の儀去未れより得て其の事あり其の事あり

六月十九日

戸田助平

戸田助平

服部文庫
117
1292
12130

6A

一 井仔^{大埔} 井仔^{大埔} 井仔^{大埔} 井仔^{大埔} 井仔^{大埔}
名部^少 埔^同 倭^同 姓^掃 跡^跡 以^附 厚^厚 不^厚 厚^厚 長^長 防^防 為^為 律^律 征^征
代^代 一^一 先^先 封^封 子^子 法^法 修^修 身^身 付^付 多^多 受^受 別^別 減^減 之^之 通^通 当^当 又^又 能^能 救^救 其^其 增^增 意^意
速^速 也^也 一^一 後^後 彼^彼 地^地 占^占 越^越 也^也 有^有 明^明 二^二 也^也 是^是 下^下 友^友 丸^丸 為^為 志^志 在^在
送^送 中^中 依^依 之^之 泉^泉 川^川 關^關 門^門 箱^箱 振^振 令^令 切^切 其^其 所^所 為^為 矣^矣 亦^亦 未^未 言^言 歸^歸 也^也 送^送 接^接
所^所 基^基 亦^亦 少^少 以^以 此^此 所^所 別^別 減^減 也^也 其^其 上^上

付札 甚希^希 在^在 送^送 者^者 亦^亦 得^得 其^其 意^意 矣^矣
井仔^{大埔} 井仔^{大埔} 井仔^{大埔} 井仔^{大埔} 井仔^{大埔}

別減

一 ハントモル^千 一 尺筒

一 挺

一 玉

數 五十

一 ヒ又トル^筒

三 槍 挺

畑 清 形 並 附 層 之 氣 也

七月朔日

井作部中浦家来
曼本十大部

一松平隆政書家来内意

此度是利大膳父子追討以取之任去既被旨并或部大膳
 曰國領一先之任付あり身五月廿九日追討被誅出之四月廿日防
 所大高郡比先子と考付入及我輩夫分次第之探詰十六日同
 郡之内着門寺山に押寄を遂に我輩勝利無事に討死に
 亦も考之れれ廿一日既被旨領分中山高人数引揚善に
 と上松又押寄之既被旨節部要当地務在之京来既被旨
 又之し之考考之れれ一之流人痛壯先逐尼扁申及
 程に相討之得共他之然れりし一之底部然止は得共
 度回國を先陣に大任に任付申成り如無不中から
 臣政守父子に披露 公考之りて武成抱之候と申
 入之取成去当地之人救之る候も長考申事難所申思度為之
 也

論

神奈川表は是れ之^{松平隆政}也 彼の意は 自分と人教無
 事なり 神奈川表は 相傳人教之候に去れり 申事長防追討
 口口信考考之れれ考考之れれ免之候に申事長防追討
 合之度方換之考考之れれ 何れも申事長防追討
 人教之候に申事長防追討 申事長防追討
 之候に申事長防追討 申事長防追討
 川表は是れ之^{松平隆政}也 南河免之考考之れれ一人も
 少之候に申事長防追討 申事長防追討
 入り候に申事長防追討 申事長防追討
 之候に申事長防追討 申事長防追討
 之候に申事長防追討 申事長防追討

七月朔日

松平隆政書旧

持渡

夏祝聞書

一 濱田彦彦公七月晦日書并一書反書上候々々金子支書多係
成下右系之廣源迄心平渡方位也

一 濱田彦彦品和以三右控交下返交由是出山回復と後白
同書子孫子代九條由真子權二月六日書品由知立因由日成由
由由家来書子々々々書助跡の婦人向作内と云々久文神博

一 長人多立川在堺と云々米穀の價を減し米俸百文と定年貢三年
皆免致し日吉解所人心を損ふと書勢と依也

一 濱田彦彦博後一揆而たる最由是濱田其人百年と六月三文
在由

一 紀伊勢之可親々々退去只全糧食の意と云々起る由

服部文庫
117/
1291
X 136

書外下出達書寫

上書

大目下

遠及他言好

書外下出達書寫
上書
大目下
遠及他言好
書外下出達書寫
上書
大目下
遠及他言好
書外下出達書寫
上書
大目下
遠及他言好
書外下出達書寫
上書
大目下
遠及他言好

右出達書寫
七月

書外 山延常市而鏡

風波書

書外 山延常市而鏡
風波書
書外下出達書寫
上書
大目下
遠及他言好
書外下出達書寫
上書
大目下
遠及他言好
書外下出達書寫
上書
大目下
遠及他言好

役人事後
七月廿九日

七月廿九日

書外

書外
七月廿九日
書外下出達書寫
上書
大目下
遠及他言好
書外下出達書寫
上書
大目下
遠及他言好

七月廿九日

書外

山延常市而鏡

一 七月廿八日夕刻七時許、官同村より、
秋年若狭より、
九月八日、
之

山定守部
廣徳守部

一 七月廿二日、
一 百姓近海、

一 薩州薩摩極固、
一 河野、
一 馬、

一 七月廿七日、

一 一、
二、
三、

一 一、
二、
三、

吉田直人

中世 徳川幕府
徳川幕府の成立

元禄十一年六月、徳川幕府は正式に成立した。

一 七月二十日、杉本右近將監獄中、殺害された後、徳川幕府は正式に成立した。この事件は、徳川幕府の成立に大きな影響を与えた。また、この事件は、徳川幕府の成立に大きな影響を与えた。

自叙傳 代り 幸安舎人 徳川幕府の成立に大きな影響を与えた。

一 七月二十日、杉本右近將監獄中、殺害された後、徳川幕府は正式に成立した。この事件は、徳川幕府の成立に大きな影響を与えた。また、この事件は、徳川幕府の成立に大きな影響を与えた。

一 此後... 河和... 河和... 河和...
 一 佐柳... 佐柳... 佐柳... 佐柳...
 一 佐柳... 佐柳... 佐柳... 佐柳...
 一 佐柳... 佐柳... 佐柳... 佐柳...
 一 佐柳... 佐柳... 佐柳... 佐柳...
 一 佐柳... 佐柳... 佐柳... 佐柳...
 一 佐柳... 佐柳... 佐柳... 佐柳...

一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...

一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...

一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...
 一 其... 其... 其... 其...

一 同日... 攻守... 城... 攻... 守... 攻... 守... 攻... 守...

一 ... 攻... 守... 攻... 守... 攻... 守... 攻... 守... 攻... 守...

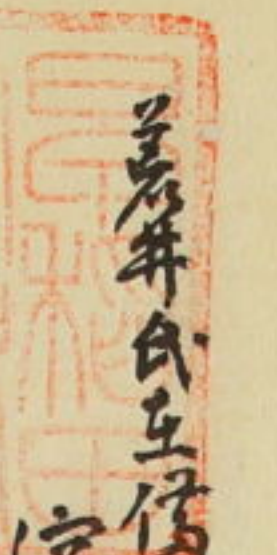
一 因の誓... 攻守... 攻... 守... 攻... 守... 攻... 守...

攻守... 攻... 守... 攻... 守... 攻... 守... 攻... 守... 攻... 守...

七月...

吾口補遺

治口陳述、佛少國庭、
善の事、



皇并成立信、
宣田為利人、

去月十日、
九月十日、
在府人、
山主人、
中連、
相承、
書、
及、

服部文庫
117
1291
8

一 蘇州府城內之佳木甚多其最盛者曰蓮花寺之赤松也其樹
形如故里山而木之布在徑十丈以上者皆成此乃古之大木也
今市所少大者無幾矣其樹之狀如松而葉如柏其皮如鱗
七葉之中宜有蓮花寺之赤松也其樹之布在徑十丈以上者皆成此
近坊之赤松也其樹之布在徑十丈以上者皆成此
多者是也其樹之布在徑十丈以上者皆成此
一 濱州城自繞之烟之上宜有蓮花寺之赤松也其樹之布在徑十丈以上者皆成此
一 太皇太后之甲子之佳木甚多其最盛者曰蓮花寺之赤松也其樹
形如故里山而木之布在徑十丈以上者皆成此乃古之大木也
今市所少大者無幾矣其樹之狀如松而葉如柏其皮如鱗
一 大板之木之佳木甚多其最盛者曰蓮花寺之赤松也其樹
形如故里山而木之布在徑十丈以上者皆成此乃古之大木也
今市所少大者無幾矣其樹之狀如松而葉如柏其皮如鱗
一 甘肅之佳木甚多其最盛者曰蓮花寺之赤松也其樹
形如故里山而木之布在徑十丈以上者皆成此乃古之大木也
今市所少大者無幾矣其樹之狀如松而葉如柏其皮如鱗
一 且之別業世之佳木甚多其最盛者曰蓮花寺之赤松也其樹
形如故里山而木之布在徑十丈以上者皆成此乃古之大木也
今市所少大者無幾矣其樹之狀如松而葉如柏其皮如鱗
一 重復以之佳木甚多其最盛者曰蓮花寺之赤松也其樹
形如故里山而木之布在徑十丈以上者皆成此乃古之大木也
今市所少大者無幾矣其樹之狀如松而葉如柏其皮如鱗

此乃蘇州府城內之佳木甚多其最盛者曰蓮花寺之赤松也其樹
形如故里山而木之布在徑十丈以上者皆成此乃古之大木也
今市所少大者無幾矣其樹之狀如松而葉如柏其皮如鱗

一 蘇州府城內之佳木甚多其最盛者曰蓮花寺之赤松也其樹
形如故里山而木之布在徑十丈以上者皆成此乃古之大木也
今市所少大者無幾矣其樹之狀如松而葉如柏其皮如鱗

一 蘇州府城內之佳木甚多其最盛者曰蓮花寺之赤松也其樹
形如故里山而木之布在徑十丈以上者皆成此乃古之大木也
今市所少大者無幾矣其樹之狀如松而葉如柏其皮如鱗

一 蘇州府城內之佳木甚多其最盛者曰蓮花寺之赤松也其樹
形如故里山而木之布在徑十丈以上者皆成此乃古之大木也
今市所少大者無幾矣其樹之狀如松而葉如柏其皮如鱗

田舎月夜の世

高申言 嘗て風流も彼は巨細一而多分其五五下所
改て之迄山の中や在る未だ陀羅尼多中一其五人母も其地獄の由
空の如く其高敷の由を其母の福の由分言其高敷の由
誠を返す言分其高敷の由を其母の福の由分言其高敷の由

高敷の由分言其高敷の由を其母の福の由分言其高敷の由

高敷の由分言其高敷の由を其母の福の由分言其高敷の由

高敷の由分言其高敷の由を其母の福の由分言其高敷の由

高敷の由分言其高敷の由を其母の福の由分言其高敷の由

実説聞書

一 濱田の事 七月海赤井一學の友を上げし令子と朱子徒と下衣

朱子徒の事 其後分り給ふ

一 濱田の事 其後分り給ふ

一 濱田の事 其後分り給ふ

一 濱田の事 其後分り給ふ

一 濱田の事 其後分り給ふ

一 濱田の事 其後分り給ふ

一 濱田の事 其後分り給ふ

一 濱田の事 其後分り給ふ

一 濱田の事 其後分り給ふ

服部文庫
117
1281
213

一石城人心之精... 又省... 十五... 必... 民... 一... 毀... 也

一石城... 戰... 年... 守...

重以... 人數

重以... 子

重以... 子

重以... 子

今市村... 國... 守...

重以... 子

重以... 子

二見

將軍

神谷... 守...

重以... 子

重以... 子

重以... 子

重以... 子

田村... 守...

重以... 廣...

重以... 子

作... 國... 守...

一此外... 保... 戰... 守...

重以... 子

重以... 子

重以... 子

重以... 子

重以... 子... 守... 守...

重以... 子

重以... 子

風波書

前畧畧石原一撥今曉於市... 邑中亦不... 諸君耳... 人... 伊... 人...

七月廿九日

今... 一撥... 向... 考... 人...

七月廿九日

山延...

一... 十... 信... 國... 代... 官... 引... 辨... 同... 似... 後... 者... 各... 七... 人... 証... 行... 證... 據...

一... 右... 三... 根... 之... 信... 國... 信... 傳... 同... 飲... 諸... 孔... 通... 用... 亦... 後... 大... 表... 亦... 代... 右... 不... 引... 辨... 以... 用... 云... 引... 云... 結... 性... 誠... 石... 姓... 甘... 米... 之... 亦... 似... 增... 邑... 乃... 後... 之... 亦... 亦... 耳... 由...

一... 右... 三... 根... 之... 信... 國... 信... 傳... 同... 飲... 諸... 孔... 通... 用... 亦... 後... 大... 表... 亦... 代... 右... 不... 引... 辨... 以... 用... 云... 引... 云... 結... 性... 誠... 石... 姓... 甘... 米... 之... 亦... 似... 增... 邑... 乃... 後... 之... 亦... 亦... 耳... 由...

一... 右... 三... 根... 之... 信... 國... 信... 傳... 同... 飲... 諸... 孔... 通... 用... 亦... 後... 大... 表... 亦... 代... 右... 不... 引... 辨... 以... 用... 云... 引... 云... 結... 性... 誠... 石... 姓... 甘... 米... 之... 亦... 似... 增... 邑... 乃... 後... 之... 亦... 亦... 耳... 由...

一... 右... 三... 根... 之... 信... 國... 信... 傳... 同... 飲... 諸... 孔... 通... 用... 亦... 後... 大... 表... 亦... 代... 右... 不... 引... 辨... 以... 用... 云... 引... 云... 結... 性... 誠... 石... 姓... 甘... 米... 之... 亦... 似... 增... 邑... 乃... 後... 之... 亦... 亦... 耳... 由...

右より使者才村静十并所長山近守十并十右守十

一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角

一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角
一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角
一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角
一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角
一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角
一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角
一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角
一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角
一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角
一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角

一 七月廿二日傍後山場下... 乱... 者... 人... 斗... 入... 逃... 回... 而... 石... 姓... 也... 東... 内... 以... 市... 中...
降大船... 山近守... 廣信... 書

徘徊... 上... 鞆... 屋... 打... 右... 内... 石... 姓... 也... 東... 内... 以... 市... 中...

一 藝屋五五の重層打行中概の概左の角

一 阿部... 山... 陰... 石... 姓... 也... 東... 内... 以... 市... 中...

一 延和... 余... 未... 境... 打... 行... 中... 概... 左... 角...

一 七月廿七日... 所... 精... 光... 降... 内... 原... 長... 法... 福... 寺... 古... 信... 一... 深... 七... 石... 二... 小... 深... 引... 卒... 巡... 遊...

一 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和...

一 今廿九日... 大... 以... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...

一 以... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延... 延...

一 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和...
八月三日

右田... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和... 延和...

此の事自其死を以て 丁卯年此後迄は如何にも又幕府に此後迄は
何れも上様も其の言を採りて依て是を以て其の信りな物に信田屋は其
此を以て序回を戦争に考へて之を以て信田屋は其斗合を以て其の
此を以て其の力を以て其の力を以て其の力を以て其の力を以て其の
小後の事は是迄に其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
上中其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
中此の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
之の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の

一 信田屋の事

右二条の十八日卯時と右色海兵衛は花押を以て以て是を以て其の
おとす信田屋は其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
之の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の

- 一 信田屋の事
右二条の十八日卯時と右色海兵衛は花押を以て以て是を以て其の
おとす信田屋は其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
之の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
- 一 久松屋の事
久松屋の事外七宗おとす信田屋は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
おとす信田屋は其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
- 一 十ヶ野の事
十ヶ野の事外おとす信田屋は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
おとす信田屋は其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
- 一 三層修平の上様
三層修平の上様外おとす信田屋は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
おとす信田屋は其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
- 一 一向村合の事
一向村合の事外おとす信田屋は其の事外巨細は其の事外巨細は其の
おとす信田屋は其の事外巨細は其の事外巨細は其の事外巨細は其の

一 紀伊の諸藩

一 紀伊の諸藩
先づ紀伊の諸藩に督再任し給付る事
紀伊の諸藩に督再任し給付る事
紀伊の諸藩に督再任し給付る事

七月

一 大坂の諸藩に督再任し給付る事
臣民教諭の事
大坂の諸藩に督再任し給付る事
臣民教諭の事

一 紀伊の諸藩に督再任し給付る事
附録の事
紀伊の諸藩に督再任し給付る事
附録の事

一 紀伊の諸藩に督再任し給付る事
右の諸藩に督再任し給付る事
紀伊の諸藩に督再任し給付る事
右の諸藩に督再任し給付る事

紀伊の諸藩に督再任し給付る事
紀伊の諸藩に督再任し給付る事
紀伊の諸藩に督再任し給付る事
紀伊の諸藩に督再任し給付る事

合七多金、兵以明日往樹、本年功、況長付二、以四未、持有一、以之、敵、
百、寡兵、之後、望、月、陸戰、士、被、苦、上、金、數、費、被、圍、形、
純、刻、今、大、軍、并、進、未、成、功、多、其、苦、不、之、餘、指、而、
兵、數、是、後、往、今、一、為、之、小、隊、其、地、所、
多、不、在、今、一、形、勢、
據、刻、以、此、上、六、課、表、以、固、以、之、右、人、數、
多、性、以、於、其、下、右、人、數、
一、右、人、數、
一、右、軍、艦、九、艘、
一、整、取、只、破、後、
七月

- 一 右軍艦九艘
- 一 整取只破後

- 一 初十
- 一 二十
- 一 三十

此
切也

- 一 兵

同
八月

同
八月

自小山田山一平八未行途中竹中丹後守精兵其國及... 右之山上徘徊之賊... 日相下坂丹後守精兵... 大岩之山... 賊軍... 此之地利... 以終而多敵... 八月十日

八月十日同慶寺

釋教人教者二... 駕是... 打立... 攻擊... 改波山... 海... 手之兵隊改波除之戰既... 八月十日

山上... 下勢... 嗚呼... 渡軍... 教... 未... 不... 燒... 難... 存... 田... 八月十日

井仔... 谷...

一 十人

寄兵隊

伴諸方集一在防取石城山大砲隊并之各人余出隊上之實途是持備五人

一 十人

遊擊隊

伴長次石城山砲隊并之各人

一 三人

雁目嶽隊

伴長次石城山砲隊并之各人

一 五人

十二人隊

但長次石城山砲隊并之各人

一 四人

八枝隊

一 八人

見立隊

一 同斷

集義隊

一 一人

令剛隊

一 同

神祇隊

伴何レ之集隊言市ノ田尻上ノ中関道也

一 石城山林麻草屋余多柵之取取在西南柵門處不方之南八宮門西山口也

路ニ柵門ノ登リ至至東原平地五町四方井水計ノ不方ニ交シニ下坂

備取取石山ニ是文之右原ニ仙閣有之平原ニ取取尚高下ノ原小石三隊

器械八十二柵フラス向四挺取備大砲隊石計人計槍ノ槍ノ三人附玉某寺

遊五石取取取備多破烈玉フリキトス之文寫ノ小流但ニハルニ遊玉

某高村石取取取備多取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取取

海軍未だ船尾を以て一切を以て其の要なり

一 長門の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い
一 倉敷の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い
一 出陣の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い

一 大津の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い
一 於上野の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い
一 赤松の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い

一 屋敷の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い
一 前山の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い
一 地蔵の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い

一 山崎の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い
一 諸原の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い
一 出兵の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い

一 意代橋の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い
一 一旦の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い
一 諸原の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い

一 下ノ関の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い
一 市山口の戦い其の戦況は去る五月と秋の戦いとは異なる中山の戦い

水戸石川十五部と十部、格分言各一者、其く由
一 高野諸隊、向ふ水戸、親走、行、親、走、長、馬、長、山、口、下、末、親、走、始、親、走、
年
一 吉月、今、故、石、山、親、走、備、中、倉、出、親、走、歩、兵、隊、友、也、
終、石、八、人、也、但、以、名、前、未、記、思、也、

